



人権啓発標語

千羽鶴 平和願い とんでいけ

菊陽北小学校 6年 吉岡 千尋 (現在中学1年生)



人にやさしくするために

「離れたくない」を学習して

菊陽西小学校 6年 西 希武 (現在中学1年生)

「離れたくない」の学習をして、まもるさんと一緒にたたかった岡田先生が「教師が国に立ち向かえたのは、他の先生やみんなの協力があってから」と伝えてくれて、一人じゃできなくてもなまがいたから立ち向かえると知ることができました。自分じゃあまりできないから見習いたいと思いました。相手が誰でもとろうと反論できるのがかっこいいと思います。自分の幸せは何か、楽しいことをするのが幸せと思っただけで、岡田先生の幸せは「人に優しくでき

ること」と言っていて、自分はイライラしたら優しくできないから、これからは自分がイライラしても相手にぶつけないようにしたいと思っています。

感想を心のノートに書いて、家族と交流をしました。家族が何と書くか、あまり期待はしていませんが、意外としっかり書いてあって、内容もちゃんと伝わってきて、びっくりしました。

二回目の心のノートの家族との交流では、これまで聞いたことがなくて聞けなかったお母さんへの疑問や家族への疑問を書きました。内容は変じゃないか、ちゃんとした返事をしてくれるのか心配だったけれど、一回目の感想以上にたくさん書いてくれました。今後自分に対してどうなっているのかを書いてあって、これをこれから目標にしようと思いました。

担任から

まもるさんや、一緒に闘った岡田先生との出会いから、たくさん感じる事ができましたね。家族と心のノートを通して感想を交流したり、聞けなかったことを聞いたりすることで、自分が思っている以上のことを家族が考えてくれていること分かりましたね。やはり話を聞いていていかなないと「本当のことを知る」ことは難しいですね。家族であってもそうなのです。周りの人も伝え合っているね。

教材「離れたくない」の概要

教材「離れたくない」は、県人権教育研究協議会が発行する人権読本「きずな」に掲載されています。敗戦当時、満州にいたまもるさん(当時5歳)は、父母と引き裂かれ中国残留日本人となり、中国で養父に育てられました。その後、まもるさんが結婚した時、妻には2人の子供がいました。血はつながってなくても「私の子ども」だと感じ、共に生きていく家族が増えたことに喜びを感じていました。さまざまな苦労の中、18年後に妻と子どもたち4人で日本に帰ることができました。また、その13年後・15年後に、当時結婚していた子どもたちの家族も呼び寄せ、「やっと家族そろってふるさとの日本で暮らせる」と喜んでいました。

しかし、その3年後、入国管理局がまもるさんと血のつながりがないことを理由に、子どもたちの家族の在留資格を取り消し、福岡入国管理局に収容しました。その後、退去強制書が出されたことで、まもるさんと家族は在留特別許可を求めて国を相手に裁判を起こしました。岡田先生をはじめとする学校の先生とともに3年以上の苛酷な闘いが続きましたが、2005年3月7日に福岡高等裁判所が「まもるさんと子どもたちの家族は実子以上のつながりがあり、家族関係は保護されなければならない。児童の権利条約などの趣旨を考慮すべき」と判決を出し、全員が在留特別許可を得ました。そして、入管法が見直され、まもるさんのような家族が日本でくらすことができるようになったのです。

一人一人の子どもが、「家族ってなんだろう」と自分の家族のことと重ねて学んでほしい教材です。

学校だより

菊陽中部小学校



『地域と共に歩んで150年』

本校は、昨年度創立150周年を迎えました。令和5年度は、コロナによる制限もなくなり、地域と協働した教育活動を充実させてきました。その一つが創立150周年式典および学習発表会です。学習発表会では、地域の「人・もの・こと」と関わって学んだことを、キラキラした表情で発表する児童の姿がありました。今後も地域と共に歩む学校を目指します。



にんじんの装いで地域のことを発表する児童

きくよう文芸

2月



菊陽句会報

- | | | | |
|-----------------|-------|------------------|-------|
| 一歩づつ老いゆく春を踏みしめむ | 紫藤 祥子 | 立春の山河に託す望みあり | 田中 郁子 |
| 節分や動画の嬰は鬼バンツ | 曾我 育代 | 梅開花吾退院を祝うごと | 寺尾千代子 |
| 垣根より覗く千両翫やけり | 曾我トモ子 | 水俣の海の青さや水仙花 | 原野レイ子 |
| 天籟のかすかに響く春隣り | 緒方千エ子 | サーカスの跡地たんぼぼ見ら駆ける | 高橋 孝子 |
| 着ぶくれて老の厨もままならず | 米山るみ子 | 青空に吸ひ込まれさう枯木道 | 北川しんじ |
| 立春の五岳を隠す雨の霽 | 吉田 幸子 | 庭芽吹く老いたれど子には従はず | 佐藤 澄世 |
| 湧き出する若水の力貰ひけり | 木村 信子 | | |

短歌会

- 寒風にいまや零余子の干乾びる軒端の蔓をえいやと剥がす
肥料減らしたトマト栽培始めた小いけれど味は濃うまし
麦に置く露は朝の日を受けて輝きやまぬ春立つ野辺に
暖かに日差しを増して山茶花も椿も庭に極まりて咲く
振り向けば鳴き声響く青空に弧を描きつつトビは去りゆく
天国か地獄へ送るえんま様芝居みたさにわれを忘れる
- 有久 賢治
梅田 國雄
佐藤せい子
中村トシエ
馬場 礼子
松本 東亜